

2020年7月5日 礼拝説教要旨

詩編講解説教21「主の慈しみ」

詩編21：2～8、フィリピ2：6～11

第20編に続いて第21編も「王の詩編」と呼ばれています。第20編では王が戦いに出る際に歌われた歌であるのに対して第21編は、その戦いに出た王が勝利して帰ってくる時に歌われた歌だと言われます。「彼を迎えて豊かな祝福を与え、黄金の冠をその頭におかれた」（4節）とあります。それゆえこの詩は勝利の王の凱旋、そして戴冠式に歌われたものだと言われます。

実は、この詩編は古来教会では伝統的にキリストの昇天日の次の日曜日に読まれたと言われています。それはこの王をキリストと捉えるならば理解できることでしょう。イエス・キリストは十字架とよみがえりの御業によって罪と死に打ち勝たれ、そして天に昇られました。それはまさに神の国への凱旋であり、真の王としての即位なのです。使徒信条でも「天に昇り、神の右に座したまえり」と告白します。「神の右」というのは神さまと同じ権威を持つことです。真の神さまとして、神の国の王として王座に着かれたのです。そして、それゆえにわたしたちは、イエス・キリストを真の神さまとして崇め礼拝するのです。なぜわたしたちが毎週ここに集まって礼拝をささげるのか。それはキリストが罪と死の支配を打ち破り勝利されたからです。そして神さまの右の座に、わたしたちの王として王座に着かれたからです。そこにわたしたちの礼拝の根拠があります。

王というのは基本的に支配する存在です。この世の王は力を誇示して人々を支配するでしょう。先週もお話ししました「神なき王」がこの世にはたくさんおられます。神さまがおられますから自分が神になって支配するのです。むしろそういう王の支配しか知らない人々も多いと思います。力で支配することが支配だと思っている。だから家庭でも職場でも、学校でも、小さな権威を振りかざして、人を威嚇し、支配するのです。支配する側もされる側も、そういう支配の仕方しか知らない人は不幸です。

こういう困難な時代にあって真のリーダーとはどういう存在でしょうか。行動力、判断力に長けていて、力で引っ張ってってくれる人をリーダーだと考える人は結構多い。結局、人々が求めているのは力のある人です。少しでも迷ったり弱さを見せると「頼りない」「素質に欠ける」と批判します。だからリーダーになった人も弱さを見せないように強がって、できる自分をアピールして、人々の求める強いリーダーになろうとする。そうやってだんだん強権的になっていく。やがて力で押さえつけ支配しようとする。右向け右で一斉に同じことをさせ、これに従わないと処罰する。それが強いリーダーシップだと考える。どうですか、世の中はそういうリーダーばかりじゃないですか。でもそれは自分たちで選んだのではないのでしょうか。自分たちが作り上げたリーダーなのではないのでしょうか。どうしてそういうリーダーを作り上げるのか。それはわたしたちが本当のリーダーを知らないからです。

では本当のリーダーとはどういう存在でしょうか。8節に注目してください。まずここに「王は主に依り頼む」とあります。「依り頼む」（バータハ）は「横たわる」という意味がありますが、完全に身を預けるということです。神さまに完全に委ね切った状態です。イエス・キリストはまさに神さまに完全に委ねられたゆえに、ご自分を無にされました。フィリピ書に

「十字架の死に至るまで従順でした」（2：6）とあります。そこまで委ねられたのです。英語の聖書では「依り頼む」を「trust」と訳します。神さまを信頼し、ご自分の身をこの地上に預けられたのです。キリストの受肉はまさにそういうことでしょう。神さまを信頼していなければできないことです。

ではどうしてこのように神さまに信頼できるのか。この信頼の根拠は「いと高き神の慈しみに支えられ」（8節）とあります。「慈しみ」これは詩編でも何度も出てくるヘセドという言葉です。「憐れみ」とか「恵み」とも訳されますが、人間の側の状態に関わらず、変わる事のない神さまの愛と理解されます。一度結んだ契約に対してどこまでも忠実にこれを守られること。愛をもって忍耐して、約束を守られる。例えばイザヤ書には次のような御言葉があります。「山が移り、丘が揺らぐこともあろう。しかし、わたしの慈しみはあなたから移らず、わたしの結ぶ平和の契約が揺らぐことはない」とあなたを憐れむ主は言われる」（54：10）

この平和の契約はイエス・キリストによって更新されました。神さまの愛ゆえに契約は破棄されず、更新されたのです。今日はほぼ5ヶ月ぶりに聖餐にあずかります。主イエスが最後の晩餐の時、これを制定された時の言葉に「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である」（Iコリント11：25）というところがあります。神さまは旧約の時代の契約を忠実に守られ、しかもこれをイエス・キリストによって、その捧げられた命によって新しい契約として再び結び直してくださいました。わたしたちがどんなに契約を放棄しても、神さまはキリストによって結び直し、なお救いの契約の中に入れてくださる。そのように約束を守られるのです。真のリーダーとはこのようなリーダーではないでしょうか。このようにどこまでも忠実で誠実なお方だからこそ、すべてを委ねることができる。信頼し喜んで従うことができるのです。

なぜわたしたちが毎週キリストを礼拝するのか。それはキリストが愛をもって約束を守られるお方であり、その誠実さゆえに信頼に足るお方だからです。そういう王の支配が始まった。そのご支配の中にあることを喜び、わたしたちは礼拝をささげるのです。

天の父よ。あなたがどこまでも慈しみ深いお方であることを教えられました。そのためにキリストが与えられ、その命を持ってわたしたちの罪を赦し、救いの契約を守り抜いてくださいましたことを感謝いたします。様々な支配が溢れる中で、あなたのご支配を生きる喜びを見出すことができますように。主の御名によって祈ります。アーメン。